男女共同参画標語
最優秀賞
「取手なら
自分らしく 輝ける」
菅谷　真白さん　取手第二中学校（当時）

46号
令和元年11月1日発行

風

優秀賞
「認め合い　つないだ手から　開く未来」
八城　立樹さん　取手第一中学校（当時）
「この社会　一人一人が　主人公」
石田　瞳さん　取手第一中学校（当時）

取手で進む「多様化」

2020年 取手市制50周年～未来に向けて

「人生100年」と言われる時代を迎え、生活スタイルが多様化するとともに、地域も様々な個性を見せるようになっています。開発の進む地区と伝統的な暮らしを引き継ぐ地区が混在する取手も例外ではありません。「年齢、性別、障害の有無、そして、国籍や文化を超えて、多様性を認め合い、互いを生かし、共生できる社会」、そんな取手の未来をイメージして取材を進めました。

人口減の市内で人口増 新興住宅地 ゆめみ野

取手市内で若いファミリー層の人口急増が著しいゆめみ野地域には、新築の家々やアパート群が立ち並び、新住民が生活を始めています。そこで、近隣から転入し新住民となった高橋さん、黒沢さん両ご夫妻と岡部さんの5人にお集まりいただき、ゆめみ野地域について、大いに語っていただきました。

「ゆめみ野」概況

平成23年に関東鉄道常総線「ゆめみ野」駅が開業し、新たな街づくりのスタートが切られました。駅北側に広がる緑豊かなゆめみ野地域には、ゆめみ野一丁目から五丁目と野々井や下高井の一部も含まれ、既に約3000人の住民が暮らしはじめており、次々と新たな住宅が建てられています。また、商業施設や物販店舗も集積し始め、生活環境も充実してきました。

住みやすい住環境

住んでみて、どうですか?の問いかけに対し、5人全員から「公園が多いうえに、学校や病院も近く、住環境がとても良い。子供も多く、ママ友も増えました。犬の散歩連れもよく見かけ、住民同士であいさつを交わすなどの交流もありますよ。」と満足そうな回答でした。暮らし易さについても「静かな環境で、野鳥も多く自然が豊か。治安もよく、育児にはいい。」とのこと。お気に入りのお勧めのお店について伺うと、近くの自家製有機野菜使用のカフェを推薦されました。地域の交流について尋ねると「ゆめみ野フェスタや有志によるハロウィン仮装、年始もちつき大会」などが、過去に開催されたとのこと。「(住民参加型の)イベントがあると、より地域交流が進むのでは。」と提案もありました。

これからの地域課題

これからの地域の課題については、「道路が広いため、路上駐車が多いかな。スピードを出す車が多いので、子供の交通事故には注意したい。また、飼い犬の糞の始末等、公園でのマナーの向上をお願い出来れば。」との母親目線からのご指摘もありました。また、ゴミ出しルールの周知や輪番によるゴミ集積場所の清掃など改善を要する問題もあるようです。

また、「同世代の子供が多いため、先々幼稚園に入りにくいのではと、ちょっと心配しています。定員増員して欲しい。」と、子育て世代にとっては、喫緊の要望も出されました。

高橋さん宅にて：(右) 高橋さんご夫妻、(左手前) 黒沢さんご夫妻、(左奥) 岡部さん

取手市に期待

来年の市制50周年に向けての要望については、「子供の体調が悪いと買い物に行けないので、有機野菜などの移動販売車の定期巡回があると、助かります。また、市内の年間行事イベントやSHOP紹介リストの配布があると、新住民には嬉しい。」とのことです。

取材を終えて、移動中、建築中の住宅を見掛けるにつけ、ゆめみ野が、日々成長している鼓動を感じました。27年間在住の〝先〟住民の私から、新住民の皆さまに対し、〝住めば都〟の取手市に愛着を持って生活していただきたいなと思いました。

（糸井）

伝統とともに生きる 歴史と自然豊かな地 山王

取手市で古くから栄えた地域の一つに山王地区があります。今回は配松に住む川上隆男（75歳）さんに山王地区の今と昔、そしてこれからの課題などについてお話を伺いました。

賑わう山王 ～昭和三十年代

山王地区は岡・和田・山王・配松・神住・中内という6つの村（集落）から構成されています。山王地区は昭和三十年代までとても賑わいがあったと川上さんは話します。「数多くの商店があった。」「銀行、そして『山王会館』という映画館もあった。」と。祭りも盛んで「山王神社から山車が3台も繰り出した。近郷から多数の見物客がやってきた。」と言います。

また、「現在の山王小と隣接して山王中学校（昭和52年学校統合により閉校）もあった。山王小は地元の誇りだ。文武両道を掲げ、（川上さんが）在籍している時は一学年60人程の児童がいた。」と。

川上さん宅にて
：左奥が川上さん

現在の山王 ～住みやすさと高齢化

高齢化と少子化は日本が抱える課題です。山王地区でも平成26年から五年間で約1割近くの人口が減少しています。そして65歳以上の人口は、平成31年度で山王地区全体の40％に達しています（取手市全体では33％）。

昭和40年代に入ると山王の町の様子も変わり始めました。「シャッターを降ろす店が多くなった。」と川上さんは話します。しかし、「煎餅店や羊羹店など伝統の味を今に伝える店舗は健在です。」

「住みやすさ」も健在です。「バスの便がよく通勤・通学に便利。何よりも隣近所の支え合いが強く、夜に電気がついていないと心配して声をかけてくれます。」

これからの山王 ～新たな出発

川上さんは「高齢者が多くなり、車の事故も心配だ。日用品や食料品を購入することが困難になっている。」と言います。その対応策の一つとして「移動販売車の充実」が必要だと提案しています。

また、これからの山王地区を支えるものとして「若者の定住化」を挙げています。現在、山王地区の「煎餅店や羊羹店など伝統の味を今に伝える店舗」は若い世代が引き継ぎ、商店街の伝統を守っています。若者の定住化と伝統ある商店の継続、これからの山王地区にとって大切なキーワードです。

川上さんに来年市制50周年を迎える取手市に期待することを尋ねました。「健康に関する施策を推進してほしい」という回答でした。

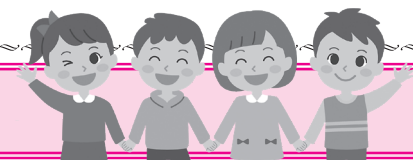
ひつぱれる
糸まつすぐや
甲虫（かぶとむし）

これは北相馬郡山王村（現神住）に明治26年に生まれた俳人・高野素十（たかのすじゅう）氏の代表句です。素十氏は利根川とその支流の小貝川に囲まれた美しい田園風景の山王で少年期を過ごしました。140余年の歴史を持ち素十氏の母校である山王小、岡堰の桜。伝統と豊かな自然の中で若者が定着し、高齢者が健康を保つ山王地区。取手市のひとつの将来像が見えた訪問となりました。

（落合）

山王神社（左）、川上さん宅が酒造業を営んでいた時の酒瓶（右）

この情報紙は、男女共同参画にむけた基礎作りの一環として、市民活動団体が主となり創刊（平成7年）。紙名は「風」と命名し、東京藝術大学院生（当時）がデザイン。
地域社会のなかに男女共生のしなやかな風を入れる情報紙となることをめざしています。



取手市で「暮らす」「学ぶ」外国人

取手を第二のふるさとにして

取手市は、都内への通勤圏でありながら、緑豊かな穀倉地帯が広がっています。

そのため市民農園や貸農園などが身近にあり気軽に農耕体験ができます。リタイアしたシニアにとっては適度な運動と新鮮野菜の収穫というダブル効果、さらには情報交換などコミュニケーションの場になっているようです。桜が丘の貸農園で、明るく周りの人に挨拶しながら、上手に畑作業をこなす若い女性に出会いました。

日本語教室とりで

日曜の午前。福祉交流センター会議室。休日でひっそりした市役所の敷地内にあって、ここだけは活気にあふれていました。「おはようございます！」元気な挨拶とともに、一人また一人と若者が集まってきます。彼らは、留学や技能実習などの目的で来日した外国出身者。貴重な休日を利用して日本語を学びにきています。

「日本語教室とりで」の日曜教室にお邪魔して、取材させていただきました。

日本語教室で学ぶ若者達

「日本語教室とりで」は、外国出身者に日本語支援を行うボランティア団体です。スタッフによると、ここ一、二年で技能実習で来日する若者が増えたとのこと。特にベトナムからの技能実習生が急増しているそうです。取材の日の学習者は、全員が十代後半から二十代の若者でした。授業の後、中級クラスの生徒さん五人に話を伺うことができました。

日本語教室とりでの授業の様子

彼らの出身地はベトナムで、そのうち四人は、市内の企業で技能実習している二十歳前後の女性たち。初々しい笑顔が印象的です。もう1人は、常総市で働く二十代の男性。日本語教室のために時間をかけて取手に来ています。

五人とも母国の仲介会社を通して来日しました。来日前には基本的な日本語の研修を受けたそうです。日本での生活は、行動範囲がほぼ職場と職場近くの住居近辺に限られ、休日は、買い物をしたり、友人と遊んだりしていると言います。茨城や取手の良いところは？の質問に「公園がきれい。」「花や自然が好き。」と答える彼らにとって、取手の自然と便利さのほど良い環境は居心地が良いのかもしれません。そんな彼らの夢は、「日本で仕事を学び、帰国して現地の日本の会社で働きたい。」「母国で日本語の先生になりたい。」「帰国して日本の店を開きたい。」など、いずれも日本で働いた経験を持ち帰り、母国でより良い仕事につくことです。

日本語学習者の現実と課題

外国人が日本でまず直面するのが言葉の壁です。言葉は単に情報伝達の手段ではなく、人間関係を築き、文化を理解し、地域になじむためにこそ必要です。逆に言えば、地域社会になじみ、日常で日本語を使うことがより効果的な言葉の習得にもつながります。ところが、現実は、日本人と友達になりたいと思っていても、なかなかその機会はありません。「日本語教室とりで」のスタッフはこう指摘します。「自分から地域コミュニティに飛び込んでいくのは勇気のいることです。こちらが受け入れる態勢を整え、働きかけていかなければ状況は変わりません。」

技能実習生の多くは、3年で実習を終えます。この3年間は若い彼らの人生に大きな意味を持つことになるでしょう。仕事だけでなく、人との出会い、文化の交わりを通して、彼らの取手での経験が実りあるものとなり、将来また日本で働きたい、取手で暮らしたいと思ってもらいたいと願わずにはいられません。

（下園）

ベトナム出身の頑張り屋さん

彼女はルォン　ティ　トゥアンさん31歳、ハノイ近郊のプート県に両親と4人兄弟の6人家族で住んでいました。薬剤師を目指していたのですが、日本に留学していた友達から日本の四季の美しさやきれいな空気、美味しい食べ物、高い給与水準などの話を聞き、日本への興味を持ち日本語を学び始めました。

そして、日本で経験を積み日本語を習得することで母国の日本企業に好条件で就職することができると、2014年に語学留学しました。ベトナム人にとって日本語は発音が単調で覚えやすいのですが、文字、文章となると苦労したそうです。学校に通いながら様々なアルバイトをして会話の勉強を進めました。

そんな折、知り合った望月さんと2017年に結婚し取手市に移り住むことになりました。

グループホーム「たんぽぽ」にて

取手市に来て最初の頃は知り合いも少なく、寂しい思いをしていましたが、幸い自宅近くのグループホームで介護の職に就くことが出来ました。初めてのヘルパーの仕事は不安でとても自信がなかったのですが、自分より年の若い男性がてきぱきと仕事をこなす姿に刺激を受け、仕事を続けることが出来ました。今では入居者の方々との会話が楽しく、やりがいのある仕事になりました。

グループホームでの勤務中のトゥアンさん。右上は菜園での様子。

トゥアンさんは仕事場のすぐ近くに畑を借りて趣味の家庭菜園を始めました。肥料の買い出しや力仕事は夫やお舅（しゅうと）さんが協力してくれ、できた新鮮な野菜を使ってお姑（しゅうとめ）さんと料理をします。仕事や畑を通じて知り合いも増えていきました。

これからの目標

今、日本語能力試験1級合格を目指して勉強しています。これは新聞が7割読める程度の語学力が必要とされるレベルだそうです。さらに、介護福祉士の資格も運転免許も取得してこの地で頑張っていきたいと笑顔で話してくれました。

二つの国を知っている若い年代の女性として取手市に何を望むか聞いたところ、もう少し交通の便が良くなってほしい、そして、外国人にとって働く場所がもっとあれば良いとのことでした。優しい笑顔でゆっくり言葉を選びながら話してくれましたが、小柄な体の中にはち切れるほどのパワーを秘めていると感じました。

（河口）

取手市で暮らす外国人

取手市で暮らす外国人は、2018年10月1日現在で一七四〇人、2014年10月1日に比較して二一八％増となっています（住民基本台帳）。総人口が減少する中、外国出身の住民は年々増加しており、今後、地域社会の重要な構成員となっていくでしょう。

今年四月からは外国人材の新しい受け入れ制度が始まり、外国人の労働力が期待されています。一方で、日本で生活する外国人が生活習慣や文化の理解不足から、地域で摩擦やトラブルが起きるケースも出ています。

定住であれ、一時的な居住であれ、同じ土地で生活する住民として、助け合いながら共に生きるにはどうすれば良いのか。今回の取材で共通して言えるのは、「日本語習得など日本の生活に最低限必要な力を身につけること」「地域社会に参加しやすい環境を作ること」が第一歩になるということです。

そのためには、支援が必要であり、個人やボランティア、地域など個々の取り組みだけでなく、行政との連携が必要です。外国出身住民の地域社会への参画は、異なる文化と多様な視点の相乗効果から地域に新たな魅力をもたらし、地域の活性化、地元企業・産業の振興につながる可能性を秘めています。

（下園）

編集後記

平成から令和へ。最初の元号「大化」から数えて248番目、我が国最古の和歌集「万葉集」から引用された「令和」。憲政史上初めてとなる譲位からくる改元でした。

年号が改まり心を新たにした人も多いことでしょう。日頃の不摂生を反省し運動を始めよう、念願の資格を取得しようなど、この機会を前向きに捉えたいものです。

令和時代、戦争のない平和な世界であり、私達一人ひとりが健康な体と心をもてる社会となるよう願ってやみません。

（落合）

発行日　令和元年11月1日
編集発行　取手市　市民協働課
下園淳子／河口優子／落合伊佐男／糸井弘
〒302－8585　取手市寺田5139
TEL　0297－74－2141
FAX　0297－73－5995
H・P　http://www.city.toride.ibaraki.jp/
Eメール　s-shien@city.toride.ibaraki.jp/
表紙絵　有本　唯

第23回　女（ひと）と男（ひと）ともに輝くとりでの集い
～輝け！人生の金メダル～

11月10日（日）12時30分開場
取手市福祉交流センター（市役所敷地内）
森 健次朗 氏 講演　元オリンピック水泳日本代表の水着開発に携わった
「イチロー選手も実践！日常生活で即使える集中力発揮のコツ」
・聖徳学園女子中学校・高等学校吹奏楽部　吹奏楽とアンサンブル
・販売コーナー、カフェ＆クラフト、手打ちそば試食
※詳細は取手市HP、ポスター、チラシでご案内しています。